

学校教育目標：かかわり合いをとおして 夢に向かってがんばる子ども

校 訓 ～ 正しく 強く 美しく ～



むぎがわ

美祢市立麦川小学校
平成27年 2月号



一年の振り返りを（学習・生活・身体）

暦の上で、3日の節分・4日の立春が過ぎると、日一日と春の気配を感じられる頃となります。さて、みなさんは何から春の気配を感じられますか。日の出・日の入りの場所や時刻、朝・日中の気温、空の様子、河原・田畑、樹木の梢、小鳥の鳴き声などが考えられます。四季のある日本ならではの自然の変化です。昔は、自然状況を見たり感じたりしながら、季節の到来を待ちわび、農作業に勤しんだようです。機械化等により、最近では見られなくなった「麦踏み」ですが、先人の知恵と辛抱強さを感じ取ることができます。自然と共存していくためには、五感を通して自然環境を体得していく必要があるような気がします。麦川には、素晴らしい自然が数多く残っています。

さて、4日には校内なわとび大会を体育館で行いました。1年生もタイミングよく跳び縄を操作し、前跳びや後ろ跳び、あや跳びに挑戦していました。自分の目標をめざし跳び続ける姿に力強さと頼もしさを感じました。子どもの頃の成長ぶりは、目を見張るものがあります。また、高学年の持久跳びの時には、大きな声で応援していました。その様子を見ながら、心が熱くなった児童も多かったと思われます。

各学級では、学年末に向けて学習のまとめを行っています。次の学年に進級するまでに、これだけは理解して押さえておきたい内容を復習しながら頑張っています。3月の卒業式・修了式までには、目標を達成できるように支援を続けます。ただ、学習面だけでなく、生活面（生活習慣・言葉づかい・友達付き合い）、身体面（運動・食事・健康・治療）にも目を向けて、ワンランクアップさせてほしいものです。（文責 校長）

4つの重点目標の達成に向けて

11月に実施した学校評価の結果をもとに「学力」「心情」「体力」「連携」の4プロジェクトにて本年度の取組を振り返り、来年度に向けての改善方法を検討しました。学校運営協議会にて報告し、ご意見もいただきましたので紹介します。

1 確かな学力の定着

一人ひとりの基礎学力と活用力の育成
すすんで毎日読書をしよう(チャレンジ目標)

基礎学力の定着と活用力を育てる授業づくり

すすんで毎日読書をしよう(チャレンジ目標)



《朝学習（月・木：国語、火・金：算数）》



《研究授業 & 研究協議》



《給食準備中の読書活動》

改善方法



- 美祢市教委が提唱している「教えて 考えさせて 定着させる」授業と、本校の学習過程「むぎ・が・わ・パワー・ふる」との統合のさらなる追究
- 主体的に学習に取り組ませるためのガイド役の指導充実（複式学級）
- 個別指導の充実（一人ひとりに応じた教育支援）
- 予習・復習の定着、帰宅後の読書時間の設定等、家庭への啓発活動の実施

学び合う活動には言葉と行動を伴うため、思いやりの心を育てることにもつながっていくと思う。条件にそって表現する活動（条件つき作文）は、大変大事なことだと思う。



学校運営協議会委員

2 豊かな心情の育成

相手の立場を考えた言動ができる児童の育成
大きな声で自分からあいさつをしよう(チャレンジ目標)

相手の立場や心情を考えられる児童の育成



《人権の花「ひまわり」の種まき》



《リーダーの育成》

大きな声で自分からあいさつをしよう(チャレンジ目標)



《朝のあいさつ運動》

改善方法



- 児童主体の活動による思いやりの心を育む実践
- 返事やあいさつの指導の徹底
- 相手の心情に配慮した言葉の選択
- 児童理解をもとにいじめ等の早期発見・迅速対応

楽しい行事への参加は多いが、地域総がかり運動等、奉仕活動への参加は少ない。「お世話になった」という気持ちを育てる機会を増やすことが必要である。



学校運営協議会委員

3 健康な身体づくりの推進

体力向上と食育を推進し基本的な生活習慣づくり
による健康な身体づくりの育成

運動習慣(チャレンジアップタイム 10分間 週3回)

家庭との連携(学校保健安全委員会、保健だより等)



運動



食育

《体育委員会を中心とした体幹運動》 《なわとび大会 10分間に挑戦》 《朝食を考えるグループワーク》 《保護者対象の給食試食会》

改善方法



- 課題項目(運動・睡眠・食事・長時間のゲーム)に対する家庭との連携の在り方の工夫
- 「麦っ子見直し週間・チャレンジ目標カード」等の継続

体幹トレーニングは、保護者にも教えていただき、家庭で子どもと一緒に取り組むとよい。バランスのとれた食事の必要性は、保護者への啓発に力を入れることで改善していくとよいのではないかと。



学校運営協議会委員

4 保護者・地域との連携

学校課題を共有し、協働で子どもを育てる組織体制づくり

地域の方々に支えられて

地域に感謝を伝えよう!



《地域の先生による水泳指導》



《麦川安全・安心みまもり隊との下校》



《麦川ありがとう作戦》

改善方法



- 児童の主体的に学ぶ姿勢を育成するための保護者との連携強化(家庭学習の手引き更新)
- 課題を共有するための積極的な情報発信
- 新しい出会いや地域のよさ等を実感できる指導の工夫(地域学習、専門家に学ぶ)
- 地域の支援を効果的に活用するための「麦っ子応援団一覧表」の作成

家庭の教育力を向上させることが必要である。児童・保護者・教職員の三者の連携は図られているが、地域との連携はそれぞれ強化が必要である。



学校運営協議会委員